

都市空間情報デジタル基盤構築支援事業 説明会

令和 7 年度採択都市 事例発表（2月）

埼玉県熊谷市
都市整備部都市計画課



PLATEAU
by MLIT

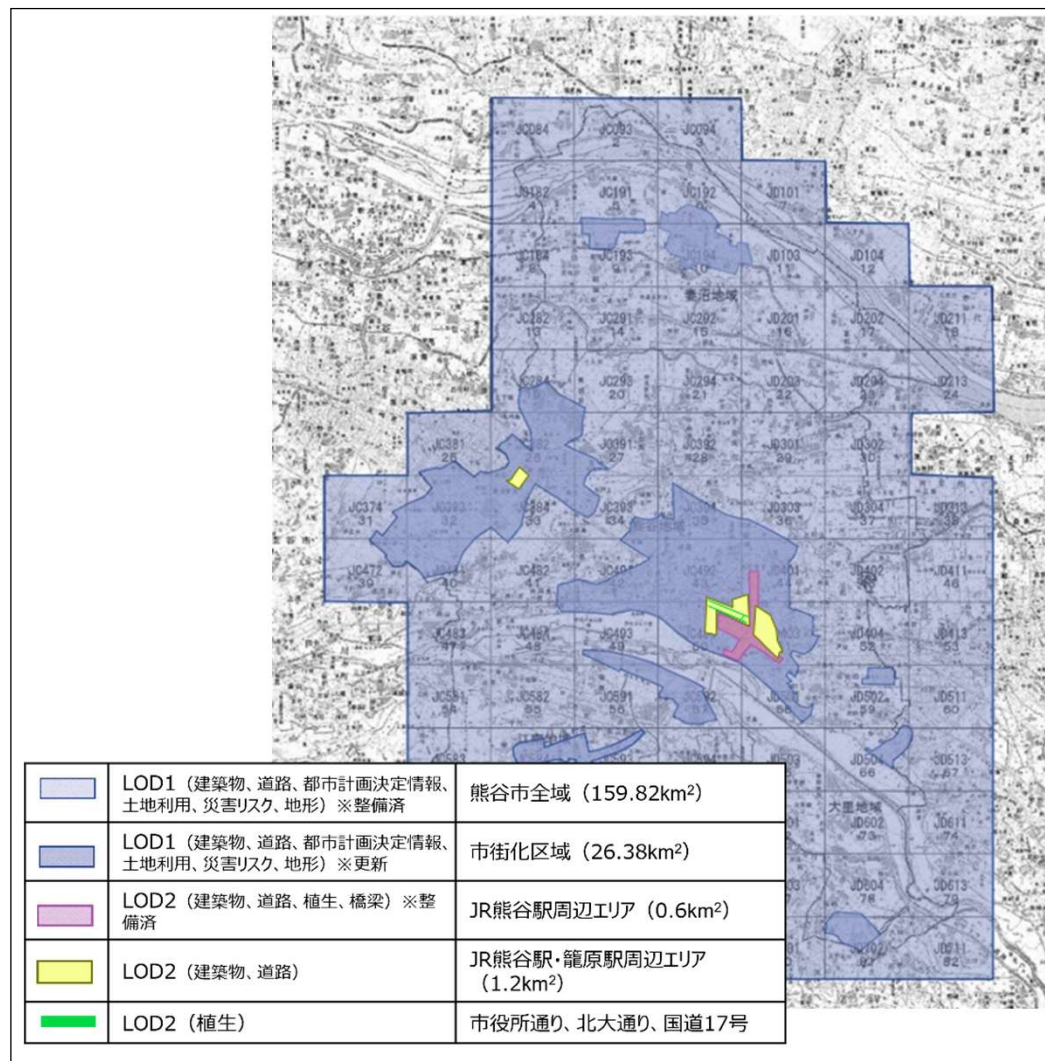
I. 3D都市モデルの整備

整備している3D都市モデルの概要

整備対象地物

地物名		整備状況	範囲
建築物	LOD1	市内全域	159.82km ²
	LOD2	駅前空間	1.8km ²
道路	LOD1	市内全域	159.82km ²
	LOD2	駅前空間	1.8km ²
都市計画 決定情報	LOD1	市内全域	159.82km ²
土地利用	LOD1	市内全域	159.82km ²
災害リスク	LOD1	市内全域	159.82km ²
地形	LOD1	市内全域	159.82km ²
植生	LOD2	駅前空間など	0.6km ²

整備エリア図





PLATEAU
by MLIT

Ⅱ. 3D都市モデルの活用一覧 (UC)

今年度含む過去のUC

R7年度実施事業		事業費 (配分 ベース) 【千円】	実施主体
年度	ユースケース事業名		
R7	3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業	7,640	株式会社ユーカリヤ
R7	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業	4,310	
R7	3D都市モデルを活用した人流可視化事業	6,955	株式会社ユーカリヤ 株式会社unerry
R7	ユースケース開発のために必要な機材調達	182	有限会社江南事務機
R6補	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業	3,500	中日本建設建設コンサルタント株式会社
R6年度実施事業		事業費 (配分 ベース) 【千円】	実施主体
年度	ユースケース事業名		
R6	3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業	6,007	株式会社ユーカリヤ
R6	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業	1,576	
R6	3D都市モデルを活用した人流可視化事業	8,674	株式会社ユーカリヤ 株式会社日本能率協会総合研究所



PLATEAU
by MLIT

Ⅱ. 3D都市モデルの活用一覧 (UC)

今年度含む過去のUC

R5年度実施事業		事業費 (配分 ベース) 【千円】	実施主体
年度	ユースケース事業名		
R5	3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業	1,128	株式会社ユーカリヤ
R5	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化事業	3,041	



PLATEAU
by MLIT

Ⅲ. R7年度の3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

ユースケース名：3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業

目的	地域連携による3D都市モデルの利活用を進め、市内在住・在学者のまちづくりへの参画を促進し、担い手を育成する。
活用内容	<ul style="list-style-type: none"> • R6年度までに開発した「まちづくりシミュレーションプラグイン」のUIを改善。 • 高校生を対象に本市まちづくりの現状・課題を伝え、3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーションによりアイデアを表現。 • 校内発表会、全体発表会を通して生徒のアイデアをアウトプットする機会を提供、まちづくりのアイデアに繋げていく。

■ ユースケース開発成果イメージ図



- まちづくりの現状・課題を学び、その課題に対して、高校生目線での解決策を3D都市モデルを用いて表現し、提案。
- 各校の代表グループが市長・副市長・市内大学の教授等の前で提案・発表し、まちづくりへの参画意識の醸成を図る。



【概要】株式会社ユーカリヤ様note記事

KPIの項目	指標・定義	目標値
まちづくりについて市民への情報提供に関する検討材料の取得	3D都市モデルを用いたまちづくりWSを通じ、まちづくりの課題の可視化について肯定的な意見が得られた割合 (%)	70%

■ 事業実施にあたり工夫した点

- R5年8月頃から市内県立高校に打診し、「総合的な探究の時間」との親和性から高校側にもメリットもあり連携が実現、R6・7年度で対象校を変えて実施。
- 市民参加型のまちづくり議論の高度化による、熊谷スマートシティの推進・「人材育成」に繋がるという事業効果を含めての説明を実施。



PLATEAU
by MLIT

IV. R8年度の3D都市モデルの活用想定（ユースケース開発）

ユースケース名：まちづくり可視化事業

ユースケース名称	まちづくり可視化事業
カテゴリ	都市計画・まちづくり
創造したい価値／解決したい課題	公民連携によるデジタルデータの利活用を進めるとともに、若者のまちづくりへの参画を促進する。
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 「まちづくりシミュレーションプラグイン」をベースに、多世代にとって使いやすい機能を追加開発し、3D都市モデル・WebGISを扱うハードルを下げる。 市内の中学生を対象に、まちづくりシミュレーションの体験機会を提供する。 デジタル分野、GIS分野への入り口としての機会提供により、熊谷スマートシティにおけるデジタル人材の育成に繋げる。 まちづくりへの関心を育み、その後のまちづくりへの参画促進に繋げる。 上記効果を創出しつつ、市HPでURLを公開することで、3D都市モデル・ウェブGISの活用機会を創出する。 開発したプラグインは自治体間で共有できる仕組みを構築し、持続可能なUC開発を推進する。

KPIの項目	指標・定義	目標値
まちづくりシミュレーション体験の提供	3D都市モデルを用いたまちづくりWSを通し、まちづくりへの関心が高まった意見の割合（%）	80%

■ ユースケース開発成果イメージ図



- より使いやすいプラグインに改良し、まちづくりシミュレーションの操作体験を通して、デジタル分野、まちづくり分野への関心を育む。

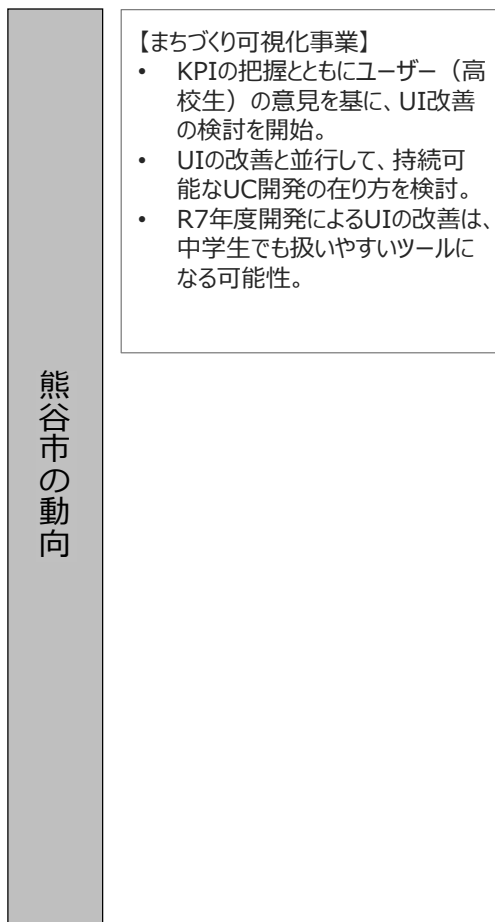
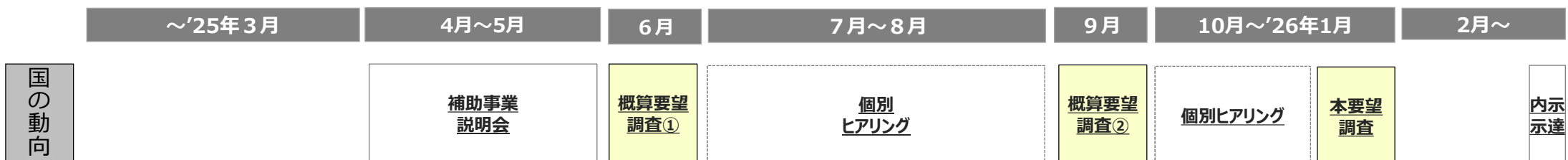


- Re:Earthへの登録不要まちづくりシミュレーションプラグイン（R7年度開発・R8年度改良予定）はURLにアクセスすることで「誰でも」利用可能。
- これまで開発してきたプラグインを希望自治体に横展開することで、持続可能なユースケース開発を目指す。



PLATEAU
by MLIT

VI. R8年度事業化に向けた検討・調整経過について



<事業の具体化に向けた検討過程>

【全般】

- 都市計画部局が窓口となり、庁内の関係部署に活用意向（概算要望の展開）を確認し、これまでUC開発に関わってきた部局には個別で、意向を確認。
- 財政部局に対しては、都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用を目指しながら、熊谷スマートシティを推進していくための必要性や、これまで取り組んできたUC開発の効果、3D都市モデルとWebGISを活用することの効果の説明。

【中学生向けまちづくりWS】

- 熊谷スマートシティにおける人材育成の観点を含め、対象を中学生にする目的を明確に位置づけ。
- R7年度の実施で浮き彫りになった課題を委託事業者と共有、より使いやすい機能を検討。
- より使いやすいツールにすることで、3D都市モデル・WebGISのハードルを下げ、中学生向けまちづくりWSのその先の世界として、市民参加型のまちづくり議論の高度化を図る。
- 市教育委員会に趣旨を説明し、賛同いただく。

<持続可能なUC開発に向けた検討（R8年度のその先）>

- これまで開発してきたWebGIS Re:Earthのプラグインを自治体に限り共有化する仕組みを検討。
- 自治体間で相互利用可能なプラグインの共有体制を構築することで、将来的には、様々な機能を活用し、持続可能なUC開発を目指す。

